

宮城県看護協会登米支部コーナー

令和5年11月発行

支部会員の皆様には、日頃より支部活動へのご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。昨年度はコロナ禍にあって制約を受けながらの支部活動でありました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行し、感染対策に努めながら下記の活動を行う事が出来ましたのでご報告いたします。

～ 令和5年度前期活動～

ふれあい看護体験 令和5年7・8月開催

高校生8名参加

登米市民病院・登米市立米谷病院にて2日間にわたり、ふれあい看護体験を実施しました。高校生8名は看護師の白衣を着用し、病院の機能や看護職の業務の説明を受けました。また参加者同士が組みになり血圧測定や、足浴を体験することで看護に触れることができたようです。



支部研修会

令和5年8月18日開催

会員48名参加

「誤嚥性肺炎を防ぐ食事介助法」 講師 佐藤 加奈子氏（登米市立登米市民病院言語聴覚士主任）高齢者人口の増加とともに、嚥下障害を呈する患者さんの割合も増加しており、参加者からは『ポジショニングや口腔ケアなど、再確認できた。明日から実践できそう』などの声が聞かれ、知識と技術向上の助けとなりました。



登米市こどもまつり

令和5年9月24日参加



コロナ禍で中止していた『登米市こどもまつり』が3年ぶりに登米祝祭劇場で開催され、登米支部役員が参加しました。支部役員が作成した水風船、つまみ細工など人気が高く、アツという間に配布終了となりました。またこどもたちは白衣を合わせ、『かんごちゃん』と記念撮影し楽しんでいただきました。地域の方々との交流を深め、役員一同楽しいひと時を過ごすことができました。

今後もより良い活動になるよう、支部役員で模索していきたいと思っております。
何かご意見等がございましたら、お近くの役員にお声掛けください

広報委員 加藤